

ハンドボール

香川県



日本ハンドボール協会公式記録用紙

No. 38

No. A5

(16名用)

スローオフチーム

A	香川県	京都府	B
合計	24	17	合計

大会名	第67回国民体育大会きん清流国体		
平成24年10月8日(月)	場所	高山市ビッグアリーナ	
種別	少年	男・女	回数 第 回戦 準決 決 リーグ

A 田中 潤 7m TC 楠本みゆき B

A 香川県	警告	退場	失格	チームタイムアウト	
				前半	後半
役員A 田中 潤				21	28
役員B 馬場 文彦					
役員C 井上 里子					
役員D					
				得点	
				前半	後半 合計
1 馬場 敦子				-	- 2
2 福家 菜月				-	- 1
3 長尾 桃子				-	- 3
4 赤松 亜朱夏				-	- 2
5 十河 優希				-	- 1
6 久原 祐希				-	- 6
7 尾形 彩加				-	-
8 内海 菜保				-	- 9
9 西谷 幸				-	-
10 高山 明日香				-	-
11 谷 蓮花				-	-
12 山内 亜美				-	-
合計				11	13 24

B 京都府	警告	退場	失格	チームタイムアウト	
				前半	後半
役員A 楠本みゆき				29	27 7 39
役員B 西山 周良					
役員C 上村 宗男					
役員D 木田 空生					
				得点	
				前半	後半 合計
1 岩見 佳音				-	- 3
2 杜氏 千結				-	- 2
3 北川 美優				-	- 1
4 片山 愛梨				-	- 6
5 古賀 美穂				-	- 2
6 嘉村 悠美				-	-
7 秋山 なつみ				-	- 3
8 林 真由希				-	-
9 正木 優唯				-	-
10 伊藤 果弓				-	-
11 椋平 直由				-	-
12 加藤 文恵				-	-
合計				8	9 17

タイムキーパー 石橋 規 スコアラー 村上 紘

前半				後半			
A	結果	得点	時間	B	結果	得点	時間
11	1	00	34				1 28
11	2	1 59					4 28
2	03	4 34		W 4	8	12	6 24
3	W	5 13		5	8	13	6 59
8	4	6 02			11	14	7 32
3	S	8 13		10 5		7 39	(T)
5	5	9 03		W 5	11	15	8 13
		9 30		2 9		10 20	10 9
11	6	13 37			4	16	10 59
		14 09		3 5	8	17	11 34
		14 53		4 2	11	18	12 54
11	7	15 23			8	19	13 43
		16 37		5 2		14 30	11 05
3	S	17 42		6 0 5	5	20	15 11
6	8	18 10			8 S	15 53	5
		18 37		7 2		17 24	12 7
11	9	19 05			8	21	18 03
(T)		21 28				18 50	13 7
		23 29		8 4	11	22	20 09
		25 03		S 4		21 13	14 5
4	10	28 03			4	23	24 10
3	11	29 18				24 58	15 3
		29 27		(T)	5 S	26 11	16 09
						27 31	17 3
11				8	2	0 24	29 30
						24	17

特記事項

マッパサイン 西尾 裕直 審判員サイン 磯川 武司 審判員サイン 瀬口 研一

ハンドボール

ぎふ清流国体ハンドボール競技

結果報告

No.37

大会名	第67回 国民体育大会 ハンドボール競技				
競技日	10月8日 (月)	試合記号	Aタ	回戦	決勝
種別	少年女子	会場	飛騨高山ビッグアリーナ		
A (都道府県名)			B (都道府県名)		
香川県			京都府		
得点合計	小計		小計	得点合計	
24	11	前半	8	17	
	13	後半	9		
		第1延長 (前半)			
		第1延長 (後半)			
		第2延長 (前半)			
		第2延長 (後半)			
		7mTC			

【 戦 評 】

記載者氏名	大森久司
-------	------

本年度インターハイの覇者、香川高松商業高校と2005~2008まで4連覇を成し遂げた名門京都洛北高校の頂点をかけた対戦。特に洛北高校は、本年度インターハイで地元高山高校に敗れた雪辱を果たしての決勝戦である。

試合は香川県のスローオフから始まり、11番谷選手が早々と、ミドルシュートを2本決めて勢いづく。その後も7mスローと、8番内海選手のサイドシュートが決まり、4対0とリードを広げる。突破口がつかめない京都府は、楠本監督の指示からポジションチェンジによりチャンスを作り7mスローと、9番正木選手のポストシュート、5番古賀選手のロングシュート、2番杜氏選手のサイドシュート、ロングシュート、再びサイドのループシュートが決まり、1点差まで徐々に追い詰める。一方香川県は21分28秒にタイムアウトを申請。その後7分間の膠着状態から4番赤松選手のループ、3番長尾選手によるカットインで3点差を広げると京都府は29分27秒にタイミング良くタイムアウトを申請するも差を縮められず8対11で前半を終了した。

後半、京都府のスローオフから始まり、幸先良く5番古賀選手が本日5点目を決め2点差にするも、香川県8番内海選手によるカットイン、速攻に続き、11番谷選手の本日6点目が決まり、たまたま7分39秒にタイムアウトを申請した。しかし、再び谷選手にミドルシュートを許し、6点差となる。その後、9番正木選手がサイドシュートを決めるも、香川県4番赤松選手、8番内海選手、11番谷選手、5番十河選手の追加点を許し、途中7mスローで1点を返すも9点差となる。しかし、7番秋山選手のサイドシュートが2本決まり再び勢いづいた。しかし、香川県の堅いディフェンスと1番馬場選手のファインセーブにより、5番古賀選手の速攻、3番北川選手の連続ポストシュートの追加点にとどまり、3点を返すも7点差を残し、香川県がインターハイの実力を存分に発揮した試合結果となった。